

## ◆◆ケア報告◆◆

～～入院中の方が結婚式に出席のため  
リフトカーでの送迎と式場内介助～～

入院中の高齢な方が、県外で行われる孫の結婚式に参加の希望を出された。

ご家族は、当日お世話はなかなか出来ないということで、病院の相談室から当会へお問い合わせをいただいた。病院側とご本人、ご家族と面談をし、お体の様子などお尋ねし、ケアをさせていただくことになった。

片麻痺があり両足で立つことが無理ということで、車椅子での移動が必要になり、当然リフトカーでの移送サービスのご利用と病院を出て病院に帰るまでの付き添いケアの利用依頼が出されました。

ご本人は「ここに出席出来るとは思っていなかったが、思いがかなって本当に嬉しい」とおっしゃられた。

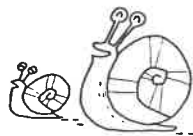
花嫁さんの入場では、感極まって泣いておられた様子。食事も何でも召し上がって、和やかな様子で終始披露宴を見守られた。

午後6時30分、無事病院にお帰りになられた。

5時間半という長い時間で、お疲れになったことでしょうに丁寧なご挨拶をいただいた。

助け合いの活動がこういう形でご利用ただけて、私達も感慨深く、大切なケアをさせていただきましたことに感謝を申し上げます。

お体大切に……………



## 当会が今年度から始めます連区規模の講座 連区の皆さんの応援をいただいて 第一回を貴船連区・貴船公民館で開催

6月22日(金)午前9時40分～午後2時40分

参加費は無料

講座のチラシは、趣旨にご理解をいただきました町内会を通して、貴船連区全戸に配布していただきました。このことは、会にとってはとても大事なことであり、画期的なことでした。

・住んでいる近い場所、かしこまらず  
介護の問題をもっと身近に考える機会を作ります・

もし、家族が、あなたが  
倒れたらどうしますか？  
いざ！という時に、  
あわてないために、  
又倒れないために、

事前に知識があったら、どんなにかあわてないですんだでしょうか  
経験された方が皆さん同じことを語っておられます  
どんな対応をすればいいのか  
どういことが分かっていければ  
いいのか/回復へのリハビリは  
どこまでできるのか/  
などなど・・・勉強します

◆内容・午前 「脳梗塞で倒れたらどうする  
又倒れないようにするには」

午後 介護技術  
排泄やおむつをどう考えるか  
車椅子移動についてなど

◆講師・午前 愛知江南女子短期大学  
伊藤和子先生

◆申込・まごころ事務所まで  
午後 まごころ  
0586-73-8707

(昼食は各自でご用意下さい)  
貴船連区の皆さん、ご参加お待ちしております

### お知らせ

平成12年度ボランティア活動は、平成12年度を以て、平成13年度に引き継ぎました。平成12年度は、平成12年度にお渡ししたおまもりカードが、平成13年度に有効です。おまもりカードをお持ちの方は、平成13年度もご利用いただけます。

### 介護度は上がったけれど

NO.18 チェック介護保険



知り合いの方が「今度、これがきました、この数字は何だね」と介護保険の再申請後の保険証を見せてくださった。  
見てみると、これまでより介護度が上がっていました。お話しを聞いてみると、この方にとって嬉しいとは裏腹に複雑な様子でした。

#### ◆負担が重い

もともと、家にいるよりデイサービスに行きたいという希望の方。しかし、デイサービスは、要支援、要介護1、2、要介護3、4、5で利用料が違って、介護度が上がると、それに連動してデイサービス利用の利用料も上がるようになっていく。今でも1割負担がきつそう、介護度が上がったためにその1割負担が増えるなら、デイサービスの利用を増やすことには躊躇があるとのことだった。デイサービスの1回の1割負担額の増額など、たいしたことではないという意見があるかもしれないが、回数があるとなれば、困るといわれる方が、あることもまた事実なのである。

#### ◆利用の難しさ

一方、この方とは逆に、1割負担でショートステイが利用できるならば、安価でありたい、と言われる。痴呆症の高齢者を抱えられるご家族。まして、介護度が上がれば利用日数が増えるから。しかし、1回最長1週間は利用できるにも関わらず、これまで実際には1泊2泊3泊4泊も利用されたことがない。自宅では徘徊など殆どないにもかかわらず、施設では夜、何度も脱走を試み、実際に施設から脱走したことがあるとのこと。脱走したら親の心配を聞くと、そんなに嫌がるならば、やはり利用は最低限しか出来ない、と言われる。介護疲れの家族には、ショートステイは最も有効な方法であるが、痴呆症の方が、家族が安心して入所出来るシステムには、まだ少し時間がかかりそうである。そういった意味では、この2例共有したいサービスが使えないのである。人にはそれぞれの事情があって、数字に示されるような具合にはなかなかいかないものである。介護する人、される人、介護と病とは相変わらず苦しいままである。